

事業番号 2022 - 文科 - 21 - 0227

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	日本学士院会員年金の支給等に必要経費			担当部局	日本学士院		作成責任者			
事業開始年度	昭和31年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	振興企画課		振興企画課長 仙波秀志			
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	日本学士院法第8条、第9条			関係する 計画、通知等	-					
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日本学士院は、学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関として、学術の発達に寄与するため必要な事業を行うことを目的とする(日本学士院法第1条)。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(日本学士院法第8条関係) ・学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞並びに日本学士院エジンバラ公賞を授賞する。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。 ・学術の研究を奨励するため必要な事業で、日本学士院が行うことを適当とするものを行う。 (日本学士院法第9条関係) ・日本学士院会員に対して年金を支給する。									
実施方法	直接実施									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求				
	予算 の 状 況	当初予算	436.4	437.7	436.7	440.9	443.3			
		補正予算	▲32.8	▲34.8	▲30.2	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	▲6.6	-	-	-	-			
	計	397	402.9	406.5	440.9	443.3				
	執行額	381.3	367.6	371.2						
	執行率 (%)	96%	91%	91%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	94%	91%	91%							
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由						
	日本学士院会員年金	375.7	375.7	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。						
	日本学士院会員等旅費	25.2	25.3							
	庁費	17.5	20.7							
	日本学士院賞金	9	9							
	外国人招へい旅費	4.9	4.9							
	その他	8.6	7.6							
計	440.9	443.3								
活動内容 (アクティビティ)	学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞並びに日本学士院エジンバラ公賞を授賞する。									
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	恩賜賞、日本学士院賞及び日本学士院エジンバラ公賞への賞金、賞牌等の授与	恩賜賞、日本学士院賞及び日本学士院エジンバラ公賞の授賞件数	活動実績	件	10	11	10	11	-	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、成果実績を定量的に示すことは困難であり、単位当たりのコストを記載することはなじまない。		単位当たり コスト	-	-	-	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	

根拠として用いた統計・データ名(出典)	-										
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と令和元年～令和3年度の達成状況・実績						
	本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、直接的な指標の設定は困難である。				事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和元～令和3年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。						
	代替目標	代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度		
	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数/掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数/掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	実績	件	1,614.9	3,211.8	3,769	-	-		
		目標値	件	1,767.2	1,981.1	2,232.8	1,856.2	-			
		達成度	%	91.4	162.1	168.8	-	-			
活動内容(アクティビティ)	学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関として、学術の発展に寄与するため必要な事業を行うことを目的とし、日本学士院会員を選定する。										
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込		
	学術上功績顕著な科学者の優遇及び学術の発展に寄与するため、日本学士院会員の定員の充足を図る。	日本学士院会員数(3月末時点)	活動実績	件	133	139	132	-	-		
			当初見込み	件	150	150	150	150	150		
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込			
	本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、成果実績を定量的に示すことは困難であり、単位当たりのコストを記載することはなじまない。			単位当たりコスト	-	-	-	-	-		
				計算式	/	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度		
			成果実績	-	-	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-	-		
根拠として用いた統計・データ名(出典)	-										
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と令和元年～令和3年度の達成状況・実績						
	本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、直接的な指標の設定は困難である。				事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和元～令和3年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。						
	代替目標	代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度		
	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数/掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数/掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	実績	件	1,614.9	3,211.8	3,769	-	-		
		目標値	件	1,767.2	1,981.1	2,232.8	1,856.2	-			
		達成度	%	91.4	162.1	168.8	-	-			
活動内容(アクティビティ)	日本学士院法第8条に定められた以下の事業を行うため、必要な会議を開催する。 ・学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞並びに日本学士院エンジンバラ公賞を授賞する。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。 ・学術の研究を奨励するため必要な事業で、日本学士院が行うことを適当とするものを行う。										
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込		
	日本学士院に係る事業の充実のため、必要な会議を開催する。	総会、分科会、委員会等開催回数	活動実績	回	146	118	190	-	-		
			当初見込み	回	150	150	150	150	150		

		算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
単位当たりコスト	本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、成果実績を定量的に示すことは困難であり、単位当たりのコストを記載することはなじまない。			単位当たりコスト	-	-	-	-	-	
				計算式	/	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-		
	達成度	%	-	-	-	-	-	-		
根拠として用いた統計・データ名(出典)		-								
定量的な成果目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と令和元年～令和3年度の達成状況・実績					
	本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、直接的な指標の設定は困難である。				事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和元～令和3年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。					
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4 年度	目標最終年度 - 年度
			実績	件	1,614.9	3,211.8	3,769	-	-	
	目標値	件	1,767.2	1,981.1	2,232.8	1,856.2	-			
	達成度	%	91.4	162.1	168.8	-	-			
活動内容(アクティビティ)		日本学士院法第8条第2号に定められた以下の事業を行う。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
			活動実績	件	68	54	55	-	-	
				当初見込み	件	80	80	80	59	59
単位当たりコスト	算出根拠				単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、成果実績を定量的に示すことは困難であり、単位当たりのコストを記載することはなじまない。				単位当たりコスト	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-			
	達成度	%	-	-	-	-	-			
根拠として用いた統計・データ名(出典)		-								

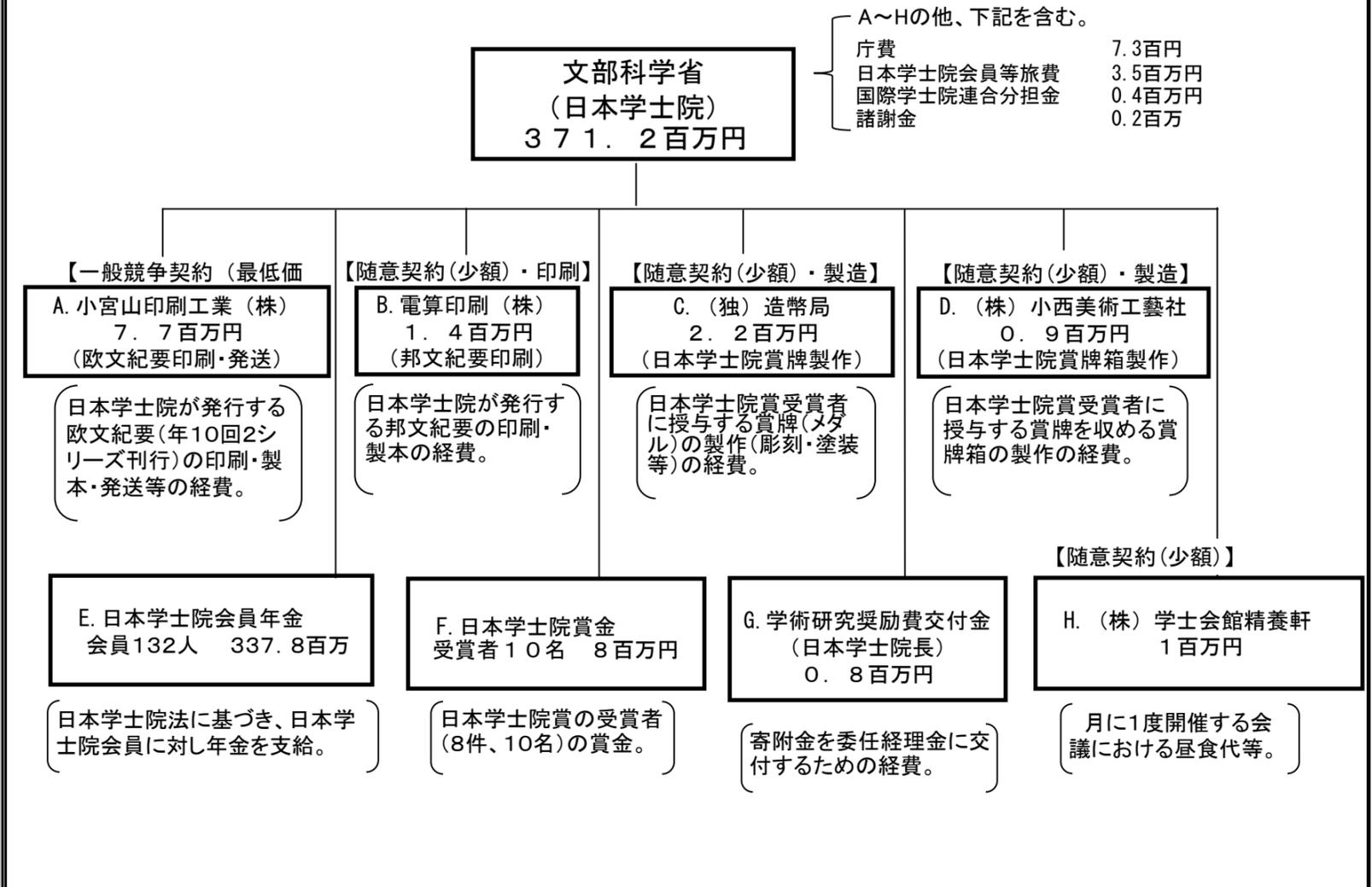
		定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と令和元年～令和3年度の達成状況・実績						
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、直接的な指標の設定は困難である。			事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和元～令和3年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。						
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
		総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数/掲載論文総数) ※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	実績	件	1,614.9	3,211.8	3,769	-	-		
			目標値	件	1,767.2	1,981.1	2,232.8	1,856.2	-		
達成度	%	91.4	162.1	168.8	-	-					
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化								
		施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興	政策評価書 URL	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf</a>						
	新経済・財政再生計画改革工程表	取組事項	分野:								
			(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-							
		該当箇所	5ページ 達成目標2 ①「大規模学術フロンティア促進事業」における独自の・先進的基礎研究の推進により生まれた成果の状況								
事業所管部局による点検・改善											
		項目	評価	評価に関する説明							
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	社会的価値を生む知と人材の蓄積、継承、発展を図っているためニーズを反映している。							
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	日本学士院では長期的視野の下、学術の発展に寄与すべく、学術上功績顕著な科学者の優遇を図っている。顕彰の対象となる科学者は全国に居住しており、全国的な視点で会員及び受賞者の選定等を行うべきものであるため、国が実施すべき事業である。							
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	イノベーションの源泉となる多様で質の高い知の蓄積や、人材の育成などに係る基盤を支えるものであり、不可欠な施策である。							
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	原則、一般競争入札を導入するなど、競争性を確保しながら支出先を選定している。1件一者応札があったが、次回調達時には仕様の見直しを行うなど、競争性、公平性を確保する。							
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		有								
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無								
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	-							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	授賞・支援対象の選定等については、会員や有識者等で構成される会議を踏まえて、真に必要なものに限定されている。							
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-								
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-								
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	会員や有識者等で構成される会議を踏まえ、効率的な経費執行等に努めている。								
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	学術上功績顕著な科学者を会員(約150名)として、学術の発展に寄与する事業を実施しており、明治44年より毎年、恩賜賞・日本学士院賞等の授賞を行うとともに紀要の編集や発行など着実な活動実績をあげている。							
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	会員が一堂に会す月に一度の総会及び分科会に際して、各種目的別委員会を同日開催し、かつオンラインでの参加も認めることで、旅費、庁費等を削減しているほか、若手研究者の奨励を目的とする顕彰制度においては、日本学術振興会事業との連携により、受賞者選考過程の一元化や式典の同時開催などを進め、効率化を図っている。							
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	過年度実績を踏まえて設定した活動見込み相当の実績を毎年度上げており、事業の目的達成に資する取組が着実に推進されている。							
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-							

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-
	事業番号		事業名		
点検・改善結果	点検結果	日本学士院法に基づいた事業の実施に当たっては、会員から構成される委員会によって審議が行われ、その決定に基づいて効率的かつ効果的に事業が実施されており、またこれに係る経費も適切に支出されている。			
	改善の方向性	引き続き、授賞事業はもとより、学術論文紀要の編集・発行など、日本学士院の特徴的な事業について、人員及びコストの増大を極力抑制しつつ、その効果を最大化するための取り組みを進めていく必要がある。			
<b>外部有識者の所見</b>					
今後複数者が入札に参加できるよう、仕様書における条件設定見直し等、競争入札を活性化させるための一層の施策が望まれる。					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
事業内容の一部改善の	この事業は昭和31年から継続している事業で、法律上の根拠があるなど制度に基づく事業であり、引き続き実施すべき事業と認められる。しかし、外部有識者の所見の記載のあるとおり、一者応札等の改善に向けた仕様書等の見直しを行うなど競争性の確保に努める必要がある。				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
改年善度を内検に	仕様書を取りに来たものの入札に参加しない又はできない業者に対して理由を聞くアンケートを取っているところであり、今後、その結果を踏まえ、競争性を確保するための改善策を検討したい。				
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの実業番号</b>					
平成23年度	268				
平成24年度	284				
平成25年度	224				
平成26年度	222				
平成27年度	210				
平成28年度	208				
平成29年度	217				
平成30年度	216				
令和元年度	文部科学省	-	0207		
令和2年度	文部科学省		0211		
令和3年度	2021	文科	20	0229	

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているかについて  
補足する)  
(単位:百万円)



費目・使途  
(「資金の流れ」に  
おいてブロックご  
とに最大の金額が  
支出されている者  
について記載す  
る。費目と使途の  
双方で実情が分  
かるように記載)

A.小宮山印刷工業(株)			B.電算印刷(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
庁費	欧文紀要の印刷・発送等	7.7	庁費	邦文紀要の印刷	1.4
計		7.7	計		1.4
C.(独)造幣局			D.(株)小西美術工藝社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
褒賞品費	日本学士院賞賞牌制作	2.2	褒賞品費	日本学士院賞賞牌箱制作	0.9
計		2.2	計		0.9
E.日本学士院会員(院長)			F. 受賞者A		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
日本学士院会 員年金	功績顕著な科学者である日本学士院会員 (院長)に支給する年金	2.8	日本学士院賞 金	日本学士院賞受賞者に授与する賞金	1
計		2.8	計		1
G.日本学士院長			H.(株)学士会館精養軒		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
学術研究奨励 費交付金	寄附金を委任経理金に交付するための経費	0.8	庁費	会議の昼食代等	1
計		0.8	計		1

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	小宮山印刷工業株式 会社	8011101007165	欧文紀要の印刷・発送等	7.7	一般競争契約 (最低価格)	1	100%	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	電算印刷株式会社	2100001013633	邦文紀要の印刷	1.4	随意契約 (少額)	-	-	

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	独立行政法人造幣局	6120005008509	日本学士院賞受賞者に授与する賞牌(メダル)の製作の経費	2.2	随意契約 (少額)	-	-	

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社小西美術工藝社	3010401010321	日本学士院賞受賞者に授与する賞牌を納める賞牌箱製作の経費	0.9	随意契約 (少額)	-	-	

E

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	院長	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員(院長)に支給する年金	2.8	その他	-	-	
2	幹事A	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員(幹事)に支給する年金	2.6	その他	-	-	
3	幹事B	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員(幹事)に支給する年金	2.6	その他	-	-	
4	部長A	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員(第1部長)に支給する年金	2.6	その他	-	-	
5	部長B	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員(第2部長)に支給する年金	2.6	その他	-	-	
6	会員A	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員に支給する年金	2.5	その他	-	-	
7	会員B	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員に支給する年金	2.5	その他	-	-	
8	会員C	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員に支給する年金	2.5	その他	-	-	
9	会員D	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員に支給する年金	2.5	その他	-	-	
10	会員E	-	功績顕著な科学者である日本学士院会員に支給する年金	2.5	その他	-	-	

